資料2

令和７年度に向けた重点的取組みの検討

重点的検討課題②　プロデューサー型人材の育成

令和６年８月28日
新産業戦略PT事務局

プロデューサー型人材の育成について

【検討事項】

クリエイターの発想を持ちつつ、事業のプロデュース・ディレクションができる“クリエイティブの素養を有するプロデューサー型人材”をどのように増やしていくか。

【検討にあたっての課題認識】

職人が磨いた技術を“どう売るか”までを担うのは難しい。また、外部人材とのマッチング支援はあるが、“どう売るか”を教える人材育成プログラムはない。
（昨年度カンファレンス・第４回PTご意見より）

➡ 今後も伝統工芸産業が持続的に新事業創出に取り組んでいくには、県内で長期的・継続的に活躍するプロデューサー型人材も必要ではないか。

２．主なご意見　論点①、②

①これからの伝統工芸産業に、新たな風を吹き込むプロデューサーに必要なスキル

・プロデューサーは経営者に近い人。地域を守っていくために起業する「地域起業家」

・木も森も両方見られるような人

・富山県のものづくりにおける生産体制やリソース（得意なマテリアル、技など）を知っている人

②県内の伝統工芸事業者とともに長期的・継続的に活躍するプロデューサー型人材を育てるには

・県内外の人を交えた学びの場（例：ソウゾウの森）

・富山県のリソースを再構築してつくる新しい地域商社（問屋）

２．主なご意見　その他の論点

・伝統工芸は、プロデューサー型の人材を活躍させるにはかなりハードルが高い。

・先行組をつくるには実例をつくる。実例をつくるにはターゲットを決めること。

・できるだけわかりやすく、多くの人に知ってもらうこと。

・後継者の問題。伝統産業をいい意味で守り、次の土俵へ。

・伝統産業のＣＥ（サーキュラーエコノミー）とＤＰＰ（デジタルプロダクトパスポート）を実現するのはプロデューサー型人材といったロジックが成り立つのではないか。

３．前回PTでの質疑に対する県の考えについて

問．伝統工芸は保護するものなのか、競争のなかで稼いでもらうものなのか。

➡ 唯一無二の技術となっている希少性の高い技術（全国唯一の産地など）の継承は保護が必要。

一方、産業として継続可能な伝統工芸として維持していくためには競争のなかで稼いでいく必要がある。

実際に、長らく生産していた仏像や仏具、茶器等から、現代のライフスタイルに受け入れられる商品を開発・販売する動きが進んでいる。

「保護」と「競争」の両方の視点が必要。

参考　経済産業省「伝統的工芸品産業の自立化に向けたガイドブック」（R6.1月）

生活文化産業としての価値を維持・発展させながら、将来的には自立（補助金等が無くても維持・発展していくこと）を目指していくもの。

４．取組みの方向性（案）

伝統工芸産業が持続可能な産業として発展・成長をもたらすプロデューサー型人材を育成する取組み

・伝統工芸産業で活躍するプロデューサー人材に必要な学び※の場や、県内外の人材の交流の場の創出

※プロデューサースキルや富山県のリソース（得意なマテリアル、技等）など

更なる展開として、新たな“地域商社（問屋）”の構築へ・・・

伝統工芸産業をプロデュースする地域商社（問屋）の具体的な役割、イメージは？

＜これまでの取組み＞

EC市場参入のためのセミナー開催やオンラインコンテンツの制作支援、海外市場での販路展開支援などを実施